

常磐夕ス

発行日 毎月五日
 定価 一月五錢
 印刷所 大和田印刷所

陽春の磐城

春の海
 ひねもすヌタリ
 ヌタリ哉

陽春ののんびりとした太平洋に面する東北の景勝地、新舞子海岸より一眸連なる磐城七濱の雄大な海、豊漁の地は春の頃愈々豊漁なり。陽春磐城の春の海……背面に磐川亘せる無盡の寶庫各炭礦地の山々も春の氣分が旺盛としてゐる、坑夫が口ずさむ

『朝の六時から
 カンテラ下げて』

の山嶺も長閑に聞へて来る陽春の候……吾れ……の常に天下に誇稱する平の松ヶ岡公園の櫻花は爛漫として研を競へ夜間は數萬の電燈と相俟つて言絶の美観を呈す、即ち花酒に酔ひ散漫漂浪として公園より一町程行く處に平一の高臺、景勝地聚樂園此浴場がある座して新川堤の櫻花を望み湯上り氣分で濃茶一椀烏白を圍むなど實際に面白の春なれ

聚樂園

風景絶佳
 浴場の設備あり……

やと吟みたくなるではないか。サア……我れ等の友よ

此の興へられたる天恵の地で働いてゐる、吾々は永い……春の日を短く遊ばずは一寸躊躇つて

納豆賣

清園

欣次が其の後、紺の筒袖に前掛小僧姿で釜屋の店舗に豆々しく立動くよふになつたのは、寒い……冬も既に過ぎて松ヶ岡公園邊りに三々伍々緊縮風も忘れたかのよふ晝となく夜となく三味や太鼓の音につれて花見客の酔眼漂々とする四月も半頃であつた。

總ての情實に同情した諸橋氏は眞の涙によつて此の憐れな一家を救済すべく欣次を店員として世話することになり欣次が納豆賣りをして得べき生計費に換へて幾程かの資金を恵んで欣次の母には停車場附近の可なり良い場所を選んでうごんそば類の小店を出してやつた……

この更生氣分に浮び上つた欣次一家は開業二三ヶ月で親子三人が今日を送るの……今日はお店の許を得て欣次は一日母の許を訪れた。

印刷物の御用命は
 大和田印刷所

からヨク且那のお言付けを守つて働いて居るのだから可愛つてくださるよ、そら僕を思つたの、大きき勝手に遊びに來たのデアあなのお店だけに毎日の商賣するまいね……

磐城セメント特約販賣店
 和洋鋼鐵 釜屋商店
 金物問屋
 電話 九番 一三九番
 振替貯金口座東京一〇九五六番
 平町五丁目

◆良品廉賣に勝る商畧なし
 確實敏捷は◎の生命なり

休暇をやるから母サンや妹付いてくださる方であらうと楽しく一日話して來いと……欣次やお母さんのお金は有難い……お父さんのお金は……お母さんのお金は……お父さんのお金は……お母さんのお金は……

磐城信用會社商店案内
 磐城海岸軌道會社
 磐城水産工業株式會社
 社長 小野晋平
 小名濱漁業組合
 組合長 立花雄七
 小名濱町 白井大敷網漁場
 郡 司 二 郎
 江名漁業組合
 組合長 佐藤德太郎
 江名信用購買組合
 理事長 太清左衛門
 江名中ノ作鐵工場
 吉田正雄
 磐城建物株式會社
 取締役 井上貞次郎
 支配人 駒場四郎
 駒場株式店 (平町田町)

土木建築 堀江工業會社
 請負業 社長 江口忠一
 片倉磐城製絲株式會社
 福島縣平町 電話平一六一・五三五番

湯本信用無盡株式會社
 湯本 町
 四倉町 電話二三番

石城郡植田町
 磐城無盡商會

共濟 各科專門
 耳鼻咽喉科 井上俊次郎
 醫學博士 渡部貞助
 醫學博士 松枝茂

內科 醫學博士 波西
 醫學博士 波西
 醫學博士 波西

外科 醫學博士 波西
 醫學博士 波西
 醫學博士 波西

衛生試驗所 醫學博士 波西
 衛生試驗所 醫學博士 波西
 衛生試驗所 醫學博士 波西

共濟會
 電話六四一
 入院自炊ノ便アリ。看護婦見習募集